

歌壇

大下一真選

特選

夏くれば母恋しかり釣忍ねいろ清しきガラス風鈴

本駒込 唐木 よし子

疎開して共に都に戻りきし金びょうぶのもと優しきひいな

水道 高木 マリ

ランドセル肩より高くいからせてピカピカ一年登校の朝

千駄木 上杉 紀世子

入選

卒寿経て藪下通りの汐見坂遠回りするわが家への道

千駄木 石井 禮子

贈られし万年筆のキャップとり暫しインクの香を懐かしむ

千 石 菊地 正矩

びっしりと水面を埋めし桜花びらや蛙声してかすかに揺るる

千駄木 伊藤 恵津子

花の蕊並木の道に散り敷きて哀れ今年の春も去り行く

千 石 小出 風沙子

銀杏の葉日ごとに大きくなりゆけり吾がこれからを見守るように

本 郷 堺 公美

三途の川渡り損ねて閻魔様に又今度ねとサヨナラをした

本駒込 浅野 信子

お風呂場のクジラとたわむれご機嫌な君は背が伸び湯舟であんよ

水道 河越 邦子

俳壇

松澤 雅世 選

特選

シャボン玉だゑんに伸びて軽くジャズ

小石川 秋庭 菊枝

蛇穴を出て俳人に囲まれし

千石 大石 坦

何もせぬことも養生新茶かな

音羽 森田 幸子

入選

桜餅優しく動く黒子かな

小日向 内野 仙也

反核の兆したゆたふ朝寝かな

向丘 片岡 マサ

穏やかに海の果て在り黄水仙

千石 菊地 正矩

春日傘くるくる回し人を待つ

本郷 堺 公美

雪の果てG線上のARIA舞う

本駒込 関口 けい子

ふとみると雫の如くすみれ咲く

西片 中島 多津子

おにやくの父さん早くもどってね

大塚 山本 茉朋